

平成25年度 自己点検・自己評価報告書

(特定非営利活動法人私立専門学校等評価研究機構・
私立専門学校等評価基準 Ver. 3.0 準拠版)

平成26年3月31日現在

森ノ宮医療学園専門学校

平成26年8月1日作成

目 次

基準 1 教育理念・目的・育成人材像等	1
1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか	2
1-2 学校の特色は何か	4
1-3 学校の将来構想を抱いているか	5
基準 2 学校運営	6
2-4 運営方針は定められているか	7
2-5 事業計画は定められているか	8
2-6 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか	9
2-7 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか	10
2-8 意思決定システムは確立されているか	12
2-9 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	13
基準 3 教育活動（鍼灸学科）	14
3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか	15
3-11 修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか	16
3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか	17
3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか	19
3-14 キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか	20
3-15 授業評価の実施・評価体制はあるか	21
3-16 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	22
3-17 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	25
3-18 資格取得の指導体制はあるか	26
基準 3 教育活動（柔道整復学科）	27
3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか	28
3-11 修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか	29
3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか	30
3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか	32
3-14 キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか	33
3-15 授業評価の実施・評価体制はあるか	34
3-16 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	35
3-17 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	38
3-18 資格取得の指導体制はあるか	39
基準 4 教育成果	40
4-19 就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか	41
4-20 資格取得率の向上が図られているか	42
4-21 退学率の低減が図られているか	43
4-22 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	44
基準 5 学生支援	45
5-23 就職に関する体制は整備されているか	46
5-24 学生相談に関する体制は整備されているか	47
5-25 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	48
5-26 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	49
5-27 課外活動に対する支援体制は整備されているか	50
5-28 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか	51
5-29 保護者と適切に連携しているか	52
5-30 卒業生への支援体制はあるか	53

基準6 教育環境 54

- 6-31 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか 55
- 6-32 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか 56
- 6-33 防災に対する体制は整備されているか 57

基準7 学生の募集と受け入れ 59

- 7-34 学生募集活動は、適正に行われているか 60
- 7-35 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか 62
- 7-36 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか 63
- 7-37 学納金は妥当なものとなっているか 64

基準8 財務 65

- 8-38 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか 66

- 8-39 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか 67
- 8-40 財務について会計監査が適正に行われているか 68
- 8-41 財務情報公開の体制整備はできているか 69

基準9 法令等の遵守 70

- 9-42 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか 71
- 9-43 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか 72
- 9-44 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか 73
- 9-45 自己点検・自己評価結果を公開しているか 74

基準10 社会貢献 75

- 10-46 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか 76
- 10-47 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか 78

基準 1 教育理念・目的・育成人材像等

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>本校は教育の理念を「患者中心の医療を基本に、臨床に優れ、かつ豊かな人間性に裏打ちされた医療人の育成を目的としています。」と定め、これはそのまま本校の育成人材像である。</p> <p>本校の目的については学則第 1 条により「はり師きゅう師、柔道整復師を養成するために医療専門課程を設置して、はり師きゅう師柔道整復師に必要な理論並びに技術の専門教育を行い、かつ医療人としての人格・教養をたかめ、もって社会の福祉と国民の健康の保持と増進に寄与すること」と定めている。これらの教育理念・目的・育成人材像等については本校 Web ページおよび学校案内等にて学内外に広く周知を行っている。また、学生手帳や小冊子「Credo (クレド)」の配布により、学生および教職員に対し、学園の理念や精神等を常に意識し行動指針とすることを求めている。</p> <p>また、平成 25 年度には、設立以来の精神・理念に基づきつつ、変化する状況に対応し、社会の要請に答えていくための新たなビジョン「関西有数の実績を誇る専門学校として、さらなる飛躍をめざします。」を掲げ、これを中長期的な視点から着実に実現するため、中期計画を定めることとした。これは第 1 期中期経営計画として結実し、平成 26 年度からの 5 ヶ年計画として遂行していく予定である。</p>	<p>本校は、昭和 48 年 3 月 1 日、当時の日本の鍼灸界を代表する 7 人の臨床家によって学校法人森ノ宮学園・大阪鍼灸専門学校として創立された。</p> <p>以来、本校の精神的支柱となってきた建学の精神「臨床に優れ、かつ豊かな人間性に裏打ちされた医療人を育成する」に基づいて、鍼灸文化の根付いた大阪の地で育まれた日本の鍼灸技術の伝統を受け継ぎ、臨床能力の高い卒業生を世に送り続けてきた。</p> <p>また、臨床教育を充実させるため昭和 57 年には、全国でもいち早く附属診療所と附属鍼灸室を併設し、昭和 60 年には卒業教育雑誌「鍼灸 OSAKA」を創刊、その後森ノ宮医療学園出版部を設立し、鍼灸を中心とする学術書籍の発刊等専門教育に関する出版事業を幅広く行っている。</p> <p>また、中国や米国の病院・教育機関との提携により、日本と海外の鍼灸および東洋医学について相互理解の促進を行うなど、伝統医学の継承発展のための数々の取り組みを行ってきた。</p> <p>平成 12 年、豊かな人間性と確かな技術を持った、社会から要請される柔道整復師を養成するため、これまでの鍼灸学科に加えて柔道整復学科を開設し、併せて学校法人森ノ宮医療学園・森ノ宮医療学園専門学校へと改称した。</p> <p>森ノ宮医療学園の学生は、教職員とともに「生命への愛と畏敬」の精神を共有し、日々研鑽に励み、医療あるいは医療人育成に携わる者としての自覚をもって、人格の向上と知識・技術の修得に努めることが求められている。</p>

最終更新日付

平成 26 年 3 月 31 日

記載責任者

尾崎 朋文

1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
1-1-1 学校が教育を行う理念・目的・育成人材像などが、明確に定められているか	理念・目的・育成人材像は解りやすい表現で明確に定められるべきである。	本校の目的は学則第1条に明記のうえ、学園の理念、精神等についても、明確に定められている。		森ノ宮医療学園専門学校学則 森ノ宮医療学園専門学校 Web ページ (http://www.morinomiya.ac.jp) 小冊子「Credo」
1-1-2 理念・目的・育成人材像を実現するための具体的な計画・方法を持っているか	理念・目的は当然長期的に達成すべき大目標であるが、変化していく状況にも素早く対応するため、具体的に達成すべき目標として中期計画を定め、それを遂行していくことも重要である。	社会の要請に応えつつ理念・目的を達成するための具体的な5ヵ年計画として、第1期中期経営計画を平成25年度に策定し、平成26年度から実行予定である。	平成25年度に定められた中期経営計画は、これが本校にとって初めての中期計画となり、今後の試金石ともなるものであることから、着実な実行はもとより、綿密な検証も求められる。	学校法人森ノ宮医療学園中期経営計画
1-1-3 理念・目的は、時代の変化に対応し、その内容を適宜見直されているか	根本的な理念・目的は時代が変わろうとも変化することはないが、カリキュラムおよび授業内容については、社会情勢の変化に対応していかなければならない。	関係業界団体の代表者等と定期的にカリキュラム、授業内容について協議を行い、学園の理念、精神を達成するために、時代に適した教育内容の見直しを行っている。	鍼灸師・柔道整復師の急激な増加により卒後の進路は開業中心から変化している。今後は、医院や病院など医療機関での鍼灸師・柔道整復師のさらなる活躍を視野に入れた養成課程の編成が必要である。	
1-1-4 理念・目的・育成人材像等は、教職員に周知され、また学外にも広く公表されているか	学園の理念、精神等については教職員および学生のみならず、ひろく学外にも周知せられるべきである。	学園の理念、精神等については Web ページ、学生手帳あるいは学園案内等で幅広く公表している。加えて平成24年度に全教職員に小冊子「Credo (クレド)」を配布した。	教職員は自ら学園の理念、精神等を把握し、学生および学外に対して説明できるよう絶えず認識することが重要である。	森ノ宮医療学園専門学校学校案内 森ノ宮医療学園専門学校学生手帳 森ノ宮医療学園専門学校 Web ページ (http://www.morinomiya.ac.jp) 小冊子「Credo」

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>理念・目的・育成人材像は、明確に定められたうえで、本校 Web ページ、学生手帳および学校案内等により学内外に周知されている。また、教職員に対し、小冊子として配布することで、具体的な一人一人の行動の指針となるよう取り組みを行っている。さらに、着実に本校の理念や目的を達成するための具体的方策として、平成 25 年度に第 1 期中期経営計画を策定した。</p>	<p>学園の理念、精神ならびに教育理念等は、学園創立以来変わらぬものとして堅持している。</p>

最終更新日付	平成 26 年 3 月 31 日	記載責任者	尾崎 朋文
--------	------------------	-------	-------

1-2 学校の特色は何か

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
1-2-5 学校の特色として挙げられるものがあるか	資格取得を最終目標とするのではなく、建学の精神、学園の理念に定めている通り、卒業後、医療現場で活躍できる医療人の養成のための教育を行う。	両学科とも実技・実習を重視した教育を行い、他校に比べて高い技術、知識の教授を行っており、臨床実習も附属診療所や鍼灸院の存在により他校と比べて多くの時間を確保している。 大阪大学歯学部第二口腔解剖学教室のご協力による解剖見学実習は、教授の指導のもと、両学科教員が系統解剖はもとより鍼灸師・柔道整復師の視点から解剖を行うことにより、座学では得られない飛躍的な教育効果をもたらしている。 また、全学生を対象とした解剖学・生理学等のゼミや鍼灸・包帯実技など多くの課外学習時間を確保している。	近年、同業他校においても臨床教育に力を入れており、更なる特色づけ、内容の深化が必要と考えている。 そのためには、附属診療所や鍼灸室での実習時間の拡充や内容の充実を図ることが重要であると考えている。また、新規の校外実習先の開拓も行っていきたい。	

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
本校では附属診療所や鍼灸院、さらに「はりきゅうミュージアム」といった施設環境と相俟って、充実した臨床教育を行っている。解剖見学実習や柔道整復学科アドバンスコースにおけるアメリカ研修、正課に加えての解剖学や生理学あるいは実技系などの課外ゼミなどにより、教育内容とその成果も専門学校として大きく水準を上げることができている。	専門学校で附属診療所・鍼灸院、さらに「はりきゅうミュージアム」等の施設を持っているのは本校の大きな特色であり、鍼灸 OSAKA の発行や解剖見学実習もまた本校独自のものである。

最終更新日付	平成 26 年 3 月 31 日	記載責任者	尾崎 朋文
--------	------------------	-------	-------

1-3 学校の将来構想を抱いているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
1-3-6 学校の将来構想を描き、3～5年程度先を見据えた中期的構想を抱いているか	全国的にも大規模校となり、国家試験合格者数はトップクラスとなった。さらに鍼灸師、柔道整復師養成校としてリーダーたる地位を築く。	平成19年に森ノ宮医療大学を開学した。平成22年には附属診療所の移転拡充を図り、また近隣にアネックス校舎を建設した。平成23年には鍼灸学科午前コースを開設させ、大学においては、看護学科、大学院修士課程を設置するに至った。また、平成24年に学園内保育所を開設するなど、学園全体で有機的な組織拡充を図っている。 また、これらの施設拡充に加えて、平成25年度には中長期的な視点から内容の充実も盛り込んだ第1期中期経営計画を策定した。	点検小項目1-1に記載のとおり、平成25年度に定められた中期経営計画は、これが本校にとって初めての中期計画となり、今後の試金石ともなるものであることから、着実な実行はもとより、綿密な検証も求められる。	平成25年度事業報告書 森ノ宮医療学園中期経営計画

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
今後の学園の中期計画と長期構想については、校内で目標を定めて取り組み、平成25年度に第1期中期経営計画として結実した。今後は中期計画の着実な遂行と検証が求められる。	

最終更新日付	平成26年3月31日	記載責任者	尾崎 朋文
--------	------------	-------	-------

基準 2 学校運営

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学校運営については、各学科、各事務部門で、次年度の方針について部門ごとに事業計画を策定し、理事会、評議員会の承認を得て、実施している。意思決定においては、事業計画に基づく起案について、各担当者（管理職のみでなく）が行い、職制、職位に基づき課長、次長、部長、校長と判断し、決裁している。業務の効率、スピード化が重要であると認識している。</p> <p>人事計画は学園法人本部を中心に校長も参加した会議にて決定している。</p> <p>情報システムについては職員すべてが専用のパソコンを持ち、学内 LAN を構築しグループウェアの活用も含め、情報の共有や効率化を図ってはいるが、データの持ち込みあるいは持ち出しといった点に関する規定はなく、個人情報の管理という点においては、対策が急務であると考えている。</p> <p>さらに、平成 26 年度から実施される中期経営計画について、各部門の情報収集、目標の設定、中核施策等の方策の決定を行った。</p> <p>運営組織については、平成 25 年度から各部門の課長以上の管理職からなる管理者会議の規程を制定し、2 週間おきに開催される会議においては、各部門における業務内容についての情報共有のほか、学校運営に関わる日常業務などの問題点や管理運営に関する事項についても審議、決定し、法人としての意志決定が必要な事案については、本会議で審議の上、理事会等に上申する機能も持ち合わせている。また、平成 25 年度に職業実践専門課程の申請を行ったが、申請条件の 1 つとして、学校内に教育課程編成委員会を組織していることとあり、本校においても教育課程編成委員会を鍼灸学科・柔道整復学科それぞれに組織し、本校における教育の方針や改善点について議論を行い、委員会開催後の学校教育に活かしている。さらに、従来から実施している兼任教員を含めた職員会議を 8 月、12 月、2 月、3 月の年 4 回程度実施し、兼任教員にも学校の教育方針や学生の動態や成績についても周知する</p>	

最終更新日付	平成 26 年 3 月 31 日	記載責任者	森・川鍋
--------	------------------	-------	------

2-4 運営方針は定められているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-4-1 学校の目的、目標に基づき、学校運営方針は明確に定められているか	理事会にて承認された事業計画に基づき、運営方針、それに基づく予算を作成し実行する。	毎年度策定される事業計画は、理事会の承認を受けている。事業計画書に記載のない事業についても、理事会にて協議を行い、学校の目的・目標と乖離がないか精査している。	例年、事業計画については、前年度の12月に決定しているが、事業計画の見直しのための理事会メンバーによる教育成果報告会を実行年度の5月に開き、計画の変更等について議論し決定している。	平成25年度事業計画書
2-4-2 学校運営方針は教職員に明示され、伝わっているか	理事会・評議員会の議決事項等を管理者会議にて、管理職に常にフィードバックし、管理職が一般職員に告知する。	学科においては職員会議、学科ミーティングなどを、学校全体においては教職共同の管理者会議を開催し、情報の共有を図っている。		職員会議議事録 管理者会議議事録
2-4-3 学校運営方針を基に、各種諸規定が整備されているか	必要とされる規程の整備はもちろん、既に定められている規程についても必要に応じて常時見直しを行う。	寄附行為、就業規則、学則等は言うに及ばず、その他学園諸規程についても整備のうえ、法人本部により管理されている。また、規程の制定ルールについても整備を行い、迅速な規程の制定、改訂を可能としている。	規定については、新たに必要となる規程や制定年度から長年経過している規程が併存するため、内容の重複等、整合性について検証が必要となっており、規程の整備に努めている。	学校法人森ノ宮医療学園規程集 森ノ宮医療学園専門学校規程集

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
毎年度策定している事業計画は理事会によって承認されており、この事業計画によって学校運営方針は定められている。学校運営方針の校内への周知については常に会議や連絡を行い、全教職員が共有できるように努めている。諸規定についても規程集という形で全教職員が常に閲覧できる状態にある。	

最終更新日付

平成26年3月31日

記載責任者

森・川鍋

2-5 事業計画は定められているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-5-4 学校の目的、目標を達成するための事業計画が定められているか	年度ごとに詳細な事業計画を定め、理事会にて承認を得る。	毎年度事業計画書を作成し、理事会にて承認を受けている。 毎年度末には事業報告書を作成し、やはり理事会での承認を受けた後、本校 Web ページで公表している。	平成 26 年度以降は、平成 25 年度中に策定された中期経営計画に基づき、決定された目標を盛り込んだ上での事業計画の立案が必要となる。	平成 25 年度事業計画書 平成 25 年度事業報告書
2-5-5 学校は事業計画に沿って運営されているか	事業計画に基づいた学校運営を行い、計画外の事業については、理事会による承認を必要とする。	年度末の事業報告書の作成により、事業計画通りの学校運営が行われたかについては、次年度の事業計画立案時に確認している。	平成 25 年度から、年度末の事業報告書の作成に加え、教育成果報告会を開催し、理事会メンバーに対し、各部門から計画の執行状況について聴取した。	平成 25 年度事業計画書 平成 25 年度事業報告書

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
毎年、事業計画書ならびに事業報告書を作成している。事業計画書および事業報告書は理事会にて精査され、学校の目的、目標に合致しているかが検証されている。また、平成 25 年度については、事業報告書作成に加え、各部門による教育成果報告会を開催し、次年度の事業計画の立案について、より精度を上げさせる努力をしている。	

最終更新日付	平成 26 年 3 月 31 日	記載責任者	森・川鍋
--------	------------------	-------	------

2-6 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-6-6 運営組織図はあるか	組織規程を定め、たうえで、運営組織図として明確化する。	学校法人森ノ宮医療学園組織規程にて定めているものを組織図にまとめており、組織についても毎年見直しを行っている。	学園組織図については大学 Web ページにて公表しているが、本校 Web ページには掲載できていない。	学校法人森ノ宮医療学園組織規程
2-6-7 運営組織や意思決定機能は、学校の目的、目標を達成するための効率的なものになっているか	組織規程および運営組織図に基づき、管理者会議等を経て速やかな意思決定と効率的な運営を目指す。	組織規程および組織図に基づく指示命令系統に則った業務命令および報告の実施を行っている。	組織規程および組織図に基づく意思決定、指示命令が原則であるが、緊急時の対応について今後検討が必要である。	管理者会議議事録
2-6-8 組織の構成員それぞれの職務分掌と責任が明確になっているか	業務分掌規程により業務分掌と責任体制を明確化する。	業務分掌規程に則り、各部署の業務の責任範囲と分担を明確に定めている。	業務分掌と責任は明確であるが、一方でさらなる効率化の観点から意志決定手続の簡素化についても検討を行いたい。	森ノ宮医療学園専門学校業務分掌規程

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
円滑な組織運営を実施しているなか、組織改編についても積極的に変更し対応できるようにしている。	

最終更新日付	平成 26 年 3 月 31 日	記載責任者	森・川鍋
--------	------------------	-------	------

2-7 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-7-9 学校運営に必要な人材の確保と育成が行われているか	学校運営の状況および関係法令に基づき必要な人材を配置する。また、学内外での研修により育成を行う。	関係法令の遵守による教職員数の確保、配置を基礎として、学校運営の状況を加味し、人員確保、配置を行っている。 人材の育成、研修についてはOJTを基本とし、東洋療法学校協会および柔道整復学校協会の教員研修会や私学経営研究会等の外部セミナーへの参加により行っている。	人材育成については、各部門でのOJTに頼るところが多く、上司のスキルに問題があれば機能しなくなる。今後はOffJTについても積極的に取り組む方向にある。人材の確保について、教員は資格等の要件もあり、困難な面もある。	
2-7-10 人事考課制度は整備されているか	あらかじめ明文化された人事考課制度により、客観的かつ公平的な人事考課を実施する。	人事考課規程を定めている。	森ノ宮医療学園の人事考課規程はあるが、PDCAサイクルに則った新たな人事制度の整備が必要となっている。	学校法人森ノ宮医療学園人事考課規程
2-7-11 昇進・昇格制度は整備されているか	あらかじめ明文化された人事考課制度により、昇進・昇格についても客観的かつ公平的に実施する。	人事考課規程を定めている。	新たな人事制度の整備により、より実態的な昇進・昇格制度が可能となる。	学校法人森ノ宮医療学園人事考課規程
2-7-12 賃金制度は整備されているか	あらかじめ明文化された賃金制度により、客観的かつ公平に賃金を支払う。	森ノ宮医療学園専門学校賃金規程を定めている。	形骸化しつつあるので、この件に関しても、新たな人事制度で改訂が予定されている。	森ノ宮医療学園専門学校賃金規程
2-7-13 採用制度は整備されているか	あらかじめ定められた採用基準に基づき、中長期的視野から人事採用を行う。	採用にあたっては本校 Web ページ等により学外に広く募集を行い、数度の面接などにより判断を行っている。	教職員の採用制度についての直接的な規程の整備について検討したい。	

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-7-14 教職員の増減に関する情報を明確に把握しているか	学園全体の教職員の増減については法人本部において把握する。	採用、人事に関しては全ての情報を法人本部の担当部署に集約し、管理している。また、教職員の増減等については毎年の事業報告書において広く公表している。		平成 25 年度事業報告書

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
人事および賃金に関する規程は学校法人森ノ宮医療学園人事考課規程、森ノ宮医療学園専門学校賃金規程などを定め整備しているが、新たな人事制度について検討している。	

最終更新日付	平成 26 年 3 月 31 日	記載責任者	森・川鍋
--------	------------------	-------	------

2-8 意思決定システムは確立されているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-8-15 意思決定システムは確立されているか	学校法人森ノ宮医療学園寄附行為に基づき、理事会を中心とした意思決定システムを構築する。	理事会、評議員会、管理者会議、職員会議、学科長会議などを定期的に行っている。		理事会議事録 評議員会議事録 管理者会議議事録 職員会議議事録
2-8-16 意思決定プロセスのポイントとなる仕組み(会議等)が制度化されているか	学校法人森ノ宮医療学園寄附行為に基づき、理事会、評議員会等を開催する。	理事会および評議員会については寄附行為により制度化され、管理者会議については規程により制度化されている。	校内の意思決定システムである、職員会議、学科会議等については規程による制度化は達成されていない。	学校法人森ノ宮医療学園寄附行為 森ノ宮医療学園専門学校管理者会議規程
2-8-17 意思決定の階層・権限等は明確か	学校法人森ノ宮医療学園組織規程、業務分掌規程および稟議規程等に基づき、業務・案件について速やかなる決裁を行う。	学校法人森ノ宮医療学園組織規程により意思決定の階層・権限を明確にしている。学校管理上重要な事項や学則その他重要な規程の制定改廃等の立案については、管理者会議等で審議し、理事会で意志決定を行っている。また、事業計画に基づく起案については、課長、次長、部長、校長と決裁している。		学校法人森ノ宮医療学園組織規程 学校法人森ノ宮医療学園業務分掌規程 学校法人森ノ宮医療学園稟議規程 森ノ宮医療学園専門学校管理者会議規程

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
理事会、評議員会、管理者会議、職員会議、学科長会議などを定期的に行っている。事業計画に基づく事案については、稟議規程等により、管理職から理事長まで順次決裁することにより意思決定を図っている。	

最終更新日付	平成 26 年 3 月 31 日	記載責任者	森・川鍋
--------	------------------	-------	------

2-9 情報システム化等による業務の効率化が図られているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-9-18 業務効率化を図る情報システム化がなされているか	グループウェア等の情報システムを導入し、業務の迅速化、効率化を図る。	従来のグループウェアから、より複数の組織体制に対応できる desknet`sNEO へと変更し、本校のみならず森ノ宮医療大学の教職員との情報の共有、業務効率化を達成できている。特に情報の周知については多大な効果を上げていると言える。	さらなるスピードアップを図るため、電子決裁システム等の導入、活用も検討する。今後も今回のグループウェア変更のように、組織実態に合致したソフトウェアを模索していく。	

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
情報システムについては職員すべてが専用のパソコンを持ち、学園内 LAN を構築し、情報の共有や効率化を図っている。	

最終更新日付	平成 26 年 3 月 31 日	記載責任者	森・川鍋
--------	------------------	-------	------

基準3 教育活動（鍼灸学科）

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>全体目標と各学科の目標を定め教育活動を行っている。</p> <p>本校は「あん摩マッサージ指圧師、はり師及びきゅう師に関する法律施行令」および「あん摩マッサージ指圧師、はり師及びきゅう師に係る学校養成施設認定規則」（以下「認定規則」とする）に基づき教育活動を行っている。</p> <p>カリキュラムについては、認定規則で規定されている教育内容以上の単位数を取得させると共に本校独自の認定規則外単位を設け、常に業界をリードする教育レベルを確保するよう運営している。</p> <p>教育活動状況については、カリキュラムに基づき、シラバスを作成することで学生の到達目標の明示化や単位認定の明確化などを図り、成績評価の客観性の確保等、常に到達レベルを見直し、位置づけを明確にしている。</p> <p>授業評価については、各学年次の科目終了前に実施している学生による授業アンケートを中心に各教員にフィードバックし、教育内容の向上を図っている。</p> <p>はり師・きゅう師資格取得を大きな目標として教育を行い、国家試験合格率は常に90%以上を誇り、成果をあげている。</p>	

最終更新日付	平成26年3月31日	記載責任者	森 優也
--------	------------	-------	------

3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-10-1 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか	業界のニーズは、幅広く、かつ即戦力となる人材にあるため、基本的な知識・技能を中心に充実させるよう努力し、就職先からも一定の評価を受けるよう努める。	各療法の疾患に対する適・不適はもちろんのこと鑑別、実技能力を確保する授業構成をしている。高レベルの応用力については授業時間外の実技ゼミ等によっても身に付けることができる。また、業界団体代表者等と連携し、教育内容についても常に最新の業界のニーズに答えられるよう、できる限り見直しを行っている。	現状の業界のニーズは、鍼灸整骨院等での即戦力であり、教育内容と乖離する部分が課題と考えている	職員会議議事録

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
業界のニーズは非常に幅広く、求められる人材も多種多様である。また、卒後は、直ちに患者の治療に当たることができるよう、基本的な知識・技能の修得に力を入れている。加えて、可能な限り応用力をも養うべく、毎日授業時間外に実技ゼミ等を開催している。	現状、業界のニーズの大半は、鍼灸整骨院等での業務に従事する人材を求められており、専ら鍼灸治療のみを行う業務ではないため、就業現場においては当校の教育内容と乖離する部分がみられる。

最終更新日付	平成 26 年 3 月 31 日	記載責任者	森 優也
--------	------------------	-------	------

3-11 修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-11-2 各学科の教育目標、育成人材像を達成する知識、技術、人間性等は、業界が求めるレベルに適合しているか、また、レベルに到達することが可能な修業年限となっているか	<p>業界団体代表者等と連携を図ることにより業界のニーズレベルを把握し、近づけるよう努める。到達レベルについては、シラバス等で明記する。</p> <p>修業年限については認定規則に定められているが、それにふさわしい教育内容の充実に努める。</p>	<p>業界団体代表者等と定期的に協議を行い、業界が求めるレベルの把握に努め、教育内容の見直しを行っている。学生に求める到達レベルについてはシラバス等で事前に公表している。</p>	<p>更なるレベルアップのために教育期間・授業時間数の増加等が考えられるが、現実的ではない。限られた時間の中でいかに効率的にすべての学生に高いレベルの教授を行えるかが課題である。</p>	<p>平成 25 年度シラバス 職員会議議事録</p>

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>業界の求めるレベルについては常に把握するよう努めてはいるが、3年という教育期間の中で就業に必要な知識、技術のすべてを教授することは困難と考えているので、重要な分野を明確にしたうえで、各科目のシラバスにおいて、学習目標（一般目標・行動目標）を掲げ、授業内容について、到達目標、知識、技能の標準、評価の基準を明示し、学生に公表している。</p>	<p>鍼灸治療は、画一的な治療法を実践するものではなく、さまざまな治療法や患者ごとの疾患に応じての施術が存在するのが現状である。したがって患者や業界のニーズそのものが多岐にわたり、結果的に学生の学習動機や目標も幅広くなっている状況にある。その中で、到達目標を一点に絞り込むのではなく、さまざまな治療法を紹介することが肝要である。</p>

最終更新日付	平成 26 年 3 月 31 日	記載責任者	森 優也
--------	------------------	-------	------

3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-12-3 学科のカリキュラムは、目標達成に向け十分な内容でかつ体系的に編成されているか	基本的なカリキュラムは認定規則に基づき編成しているが、加えて実技実践力や応用力の部分でさらなる吟味を行う。	鍼灸の東洋医学では、経絡、中医学など考え方が画一的でなく、一通り教授するようにしている。また、人間性や応用力を養うため、認定規則外単位を設けている。	教科間で意思の疎通が十分とは言えない現状と認識している。各教科に対して、担当に一任していたが、教科間の意志の疎通を図り、体系的に編成を行う。	あん摩マッサージ指圧師、はり師及びきゆう師に係る学校養成施設認定規則 平成 25 年度シラバス
3-12-4 カリキュラムの内容について、業界など外部者の意見を反映しているか	積極的に業界や他施設の教員との意見交換を行い、教育内容に反映していく。	教育課程編成委員会、東洋療法学校協会の教員研修会や教育部会、教科担当者間での意見交換などを行っている。また、年 4 回程度開催の職員会議において鍼灸師である兼任教員から現場の意見を頂戴している。	さらに東洋療法学校協会加盟校や大学との意見交換を行い、さらなるカリキュラムの錬成に努めていきたい。	東洋療法学校協会教員研修会 東洋療法学校協会教育部会 職員会議議事録 鍼灸学科教育課程編成委員会議事録
3-12-5 カリキュラムを編成する体制は明確になっているか	学科長を中心に作成したカリキュラム案を、学科全教員で協議する。	教員間でのカリキュラム作成に関する知識の共有を行っている。将来は全ての教員が同一レベルの知識を得るようにしたい。	今後は、教員全員に周知徹底し、明確な体制を維持したい。	森ノ宮医療学園専門学校学則 平成 25 年度シラバス
3-12-6 カリキュラムを定期的に見直しているか	認定規則で定められたカリキュラムは堅持しつつ、業界の意見もできる限り取り入れていく。	鍼灸治療や広く医療に係る状況等の変化と新たな知見により、変化した部分や不都合が生じた場合、臨機応変な学則改訂を関係所轄庁と相談の上行い、カリキュラムを定期的に見直している。	さらに、状況を判断し、見直しの必要な部分を検討できるような体制の維持に努める。	森ノ宮医療学園専門学校学則 平成 25 年度シラバス

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>教育内容の多くは、「認定規則」により規定される部分が多く、体系的に編成するには教育期間も鑑みると十分とは言えない。その中でも可能な限り体系的に編成するよう努力をし、より効率的なカリキュラムの構築を目指し、定期的カリキュラムを見直す作業を行っている。</p>	<p>前述のように、教育内容は認定規則に規定された内容以上になっている。</p>

最終更新日付	平成 26 年 3 月 31 日	記載責任者	森 優也
--------	------------------	-------	------

3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-13-7 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか	適正な位置付けを目標としている。	3年間という限られた期間の中で、より効率的なカリキュラムとなるべく科目の配置、内容は常に見直しを行っている。鍼灸学科ではシラバスを作成しており、シラバスの概観により、科目の位置付けを俯瞰的に確認している。	今後はさらなるシラバスの内容の吟味と実施内容が必要。	平成25年度シラバス
3-13-8 各科目の指導内容、方法等を示したシラバスが作成されているか	シラバスには到達目標、成績評価基準を明記している。	鍼灸学科では毎年度シラバスを作成している。	今後はシラバスの内容の吟味と実施内容が必要と認識し改善の方向で進めている。	平成25年度シラバス
3-13-9 各科目の一コマの授業について、その授業シラバスが作成されているか	全科目、全授業についてシラバスを作成する。	講義・実技・演習関係について、シラバスに則り授業が執り行われている。	全科目でシラバスを作成しているが、授業ごとのシラバス作成までは徹底できていない。コマシラバスの作成も検討していきたい。	平成25年度シラバス

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
シラバスは授業の重要な柱と考え、鍼灸学科においては科目ごとのシラバスの作成を行っている。今後、内容等について積極的な取り組みを行ってきたい。	

最終更新日付	平成26年3月31日	記載責任者	森 優也
--------	------------	-------	------

3-14 キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-14-10 キャリア教育が行われているか	本校においては教育課程全体が職業教育となっており、その中において、教員が正しくキャリア教育を理解し実現することを目標とする。	国家試験合格を目標とするのではなく、合格後を見据えた教育を行っており、出来る限り現役の鍼灸師と接する機会を設けている。	国家試験不合格の学生に対する指導が重要と考える。	
3-14-11 キャリア教育の実効性は検証されているか	国家試験合格率が一つの指標であるが、卒業後の進路についても把握していく。	在校生、卒業生ともに希望者への就職指導、就職支援は行っている。	卒業生の進路については把握しきれていない。今後、定期的な調査を行うことも検討したい。	

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
本校は鍼灸師養成校であることから、課程そのものが職業教育と言え、一定の成果が見受けられるが、一方で卒業生がすべて業界で就職しているかどうかの確認が出来ておらず、キャリア教育については十分ではないとの認識がある。さらに卒業生の進路についてもフォローしていく必要がある。	

最終更新日付	平成26年3月31日	記載責任者	森 優也
--------	------------	-------	------

3-15 授業評価の実施・評価体制はあるか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-15-12 学生による授業評価を実施しているか	各学年次の科目終了ごとに5件法と自由記述による授業評価アンケートを実施する。	各学年次の科目終了前の授業時間中に授業評価アンケートを行っており、回収率は90%以上ある。	現在、学生による授業評価アンケートの結果を受け、教員に対してのフィードバックをいかにするかを検討中である。	平成25年度授業アンケート
3-15-13 授業内容の設計や教授法等の現状について、その適否につき学科や学校として把握・評価する体制があるか	アンケート結果について、各担当者にフィードバックするとともに学科においても授業改善の検討材料とする。	各担当教員には、学生からの授業評価の集計一覧を手渡し、参考にしてもらっているが、学科としての評価は行っていない。 一部の教員は積極的に現状を把握し、学生からの評価を活用している。	学科としての評価基準やフィードバックの仕方については、今後検討が必要。	平成25年度授業アンケート

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>授業改善や教職員の資質の向上を図るため、授業評価の実施・評価体制は重要と考えている。</p> <p>評価体制としては、学生による授業評価アンケートのみではなく、今後は教職員間での公開授業などを通して、それぞれの専門性の相互理解や有効的な授業評価を行っていく予定である。</p>	

最終更新日付	平成26年3月31日	記載責任者	森 優也
--------	------------	-------	------

3-16 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-16-14 学科の育成目標に向け授業を行うことができる要件（専門性・人間性・教授力・必要資格等）を備えた教員を確保しているか	教授資格等、各要件を満たしている教員を採用し、教育力充実を目指し、育成していく。	幅広く多様な人材を採用するために、教員の公募を行い、応募者の履歴書等の確認、面接、実技試験を実施して、採用決定している。採用後は、新人教員研修等や学内外においてFDを実践している。	自校卒業生の採用が多くなってしまっているため、2年前より広く公募することとした。自校卒業生であれば、自校教育期間中に教員適性や人間性、学力についてほぼ把握できていたが、他校卒業生の場合、新たな基準作りが必要と考えている。	教員資格保有の証票類等 新人研修スケジュール表
3-16-15 教員の専門性レベルは、業界レベルに十分対応しているか	実際の臨床現場で活躍している教員を採用し、業界レベルに対応する。	臨床に携わっている教員の採用および臨床の継続を推奨している。	教育力と臨床力とは必ずしも一致する訳ではなく、教員の人材確保には苦慮している。	
3-16-16 教員の専門性を適宜把握し、評価しているか	教員の専門性の把握を行い、適切な教科を担当させる。	教員採用時の面接等で専門性は把握している。	教員間での評価は専門性からも難しい。教員に対する評価委員会等の設置が必要。	
3-16-17 教員の専門性を向上させる研修を行っているか	専門性について深め、個人研究および関連学会等の参加について、学校として奨励する。	各教員に対し、個人学術費を設けている。研究計画の内容により個人学術費の中から、支給している。	学校内での専門性を高める研修は難しく、積極的に外部施設や大学医学部・歯学部との連携が必要となる。	平成25年度個人学術計画書 平成24年度個人学術報告書

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-16-18 教員の教授力(インストラクションスキル)を適宜把握し、評価しているか	基礎的な教授力は極めて重要であり、適宜把握したうえで、不断のインストラクションスキル向上を目指す。	授業評価アンケートにより各教員の教授力を把握しているが、組織として評価委員会等は設置していない。	教員に対する評価委員会等の設置が必要と思われる。	平成 25 年度授業評価アンケート
3-16-19 教員の教授力(インストラクションスキル)を向上させる研修を行っているか	学内外の研修へ参加しやすい体制を整え、教授力向上を促す。	初任時は、担当科目について模擬授業等を行わせ、問題点を指摘し育成を行っている。東洋療法学校協会主催の教員研修会への参加により教授力の向上を図っている。	初任時のみ行っている模擬授業等について、教授科目が 2 年目、3 年目となっても実施する必要がある。	東洋療法学校協会教員研修会抄録
3-16-20 教員間(非常勤講師も含めて)で適切に協業しているか	定期的に会議等により意見交換を行い、授業内容の改善や教授力の向上を図る。	学期ごとに職員会議や実技担当者会議を開催し、現状認識、意見交換、改善策等を話し合い実行している。	その他の教科についても、会議等の開催が必要と思われる。	職員会議議事録 実技担当者会議議事録
3-16-21 非常勤講師間で適切に協業しているか	密接なコミュニケーションにより、一層の教育効果を得る。	兼任教員間での普段のコミュニケーションは行えている。職員会議や実技担当者会議も兼任教員間の協業のための重要な場となっている。授業報告書等の提出までは求めている。	将来においては授業報告書の作成を義務づけ、それを元に会議等の開催が必要と思われる。	職員会議議事録 実技担当者会議議事録

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-16-22 非常勤講師の採用基準は明確か	教員資格、適性等を勘案し採用する。	採用時に履歴書の他、面接、模擬授業等を実施して判断している。	他校卒業生の採用をしていくためには人間性や学力、教授能力等をはかることができる採用方法の検討が必要であると考えられる。	教員資格保有の証票類等

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
本校は、臨床の第一線にいた鍼灸師により創設された経緯がある。本校の精神的支柱となってきた建学の精神「臨床に優れ、かつ豊かな人間性に裏打ちされた医療人を育成する」に基づき、教育に携わる教員については、臨床経験豊富な人材をそろえ、また育成を図っている。	

最終更新日付	平成 26 年 3 月 31 日	記載責任者	森 優也
--------	------------------	-------	------

3-17 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-17-23 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	成績評価・単位認定の基準について明確にし、事前に学生に提示する。	筆記試験・実技試験により成績評価を行っている。一定の評価以上を獲得し、規定の出席数を満たしている者が単位を認定される。	一部の科目によっては、コースごとの担当教員の違いにより試験難易度にばらつきが見られるため、試験選考委員会を立ち上げるなど成績評価基準や単位認定要件の吟味が必要と思われる。	森ノ宮医療学園専門学校教務規程 平成 25 年度学生手帳
3-17-24 他の高等教育機関との間の単位互換に関する明確な基準があるか	単位互換については、認定規則に則り行う。	認定規則および本校学則に則り単位互換を実施している。	本校学則により、必要であれば、試験等により評価した上で単位互換を実施しているが、今後試験を課すか検討が必要と思われる。	森ノ宮医療学園専門学校学則

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
成績評価・単位認定については、本校で規定した内容で行っている。単位互換については、認定規則に則り行っている。	

最終更新日付	平成 26 年 3 月 31 日	記載責任者	森 優也
--------	------------------	-------	------

3-18 資格取得の指導体制はあるか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-18-25 目標とする資格はカリキュラムの上で明確に定められているか	認定規則により、カリキュラムの内容が規定されている。本校においてはカリキュラムそのものが資格取得のためのものとなっている。	本校カリキュラムは、認定規則に規定された内容以上の単位数となっており、加えて、実技・実習をより多く取り入れている。	認定規則に規定される部分が多く、それ以上の特色を出すことが困難であるが、今後も検討が必要と思われる。	森ノ宮医療学園専門学校学則
3-18-26 目標とする資格の取得をサポートできる教育内容になっているか	認定規則に則り、国家資格取得のための授業内容とする。	3年次の9月以降については、国試対策ばかりでなく、応用力を高めるため、国家試験科目以外の教科を配置している。	より効率的な科目配置について検討が必要と思われる。	平成25年度シラバス

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
最終目標は、国家試験合格であり、それに対する授業も行いつつ、学力不足の学生に対しては、課題提出や補講と言ったかたちでサポートをしている。卒業後も国家試験不合格者に対しては聴講制度による指導を行っている。	

最終更新日付	平成26年3月31日	記載責任者	森 優也
--------	------------	-------	------

基準3 教育活動（柔道整復学科）

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>本校は「柔道整復師法施行令」および「柔道整復師学校養成施設指定規則」（以下「指定規則」）に基づき教育活動を行っている。</p> <p>カリキュラムについては、指定規則で規定されている教育内容の単位数以上の単位を取得させるとともに、本校独自の指定規則外単位を設け、業界をリードする教育レベルを確保するよう運営している。</p>	

最終更新日付	平成26年3月31日	記載責任者	葉山 直史
--------	------------	-------	-------

3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか
--

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-10-1 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか	業界のニーズは幅広いが、外傷に対して適切な対応ができるよう、基本的な知識・技術を習得させるよう努め、就職先からも一定以上の評価を受けるよう努める。	各外傷・疾患に対する初期対応や鑑別はもちろんのこと、その後の処置が行える実技能力を確実に身につけることができる授業構成をしている。また、業界団体代表者等と連携し、業界のニーズの変化に応えられるよう、教育内容について常に見直しを行っている。	現状の業界のニーズは、鍼灸整骨院等での即戦力であり、教育内容と乖離する部分が課題であると考えている。	

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
業界のニーズは幅広く、しかも即戦力として求められることが多い。そのため様々な要望に出来るだけ早く応えられるように、普遍的、基本的な知識・技能の修得に力を入れ、可能な限り応用力を養わせるよう、授業・実技・実習を工夫している。	現状、業界のニーズの大半は、外傷の治療、後療ではなくマッサージなどの手技が中心になっているが、本校では柔道整復師の本分である外傷の施術に加え、運動器疾患の鑑別についての教育に力を入れている。これらの「臨床現場での基礎力」を身につけさせていることで、業界からは一定の評価を受けている。

最終更新日付	平成 26 年 3 月 31 日	記載責任者	葉山 直史
---------------	------------------	--------------	-------

3-11 修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-11-2 各学科の教育目標、育成人材像を達成する知識、技術、人間性等は、業界が求めるレベルに適合しているか、また、レベルに到達することが可能な修業年限となっているか	<p>業界団体代表者等と連携を図ることにより業界のニーズレベルを把握し、近づけるよう努める。到達レベルについては、シラバス等で明記する。</p> <p>修業年限については指定規則に定められているが、それにふさわしい教育内容の充実に努める。</p>	<p>学生に求める到達レベルについてはシラバスや各授業開始時の担当講師による授業オリエンテーション等で事前に公表している。</p>	<p>業界の現状や今後起こるであろう変化を見据えると、業界のニーズに応えることはもちろん、業界をリードする人材を輩出できるような教育をさらに進めたい。</p>	平成 25 年度シラバス

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>業界の求めるレベルについては常に把握するよう努めているが、3年間という教育期間の中で就業に必要な知識、技術のすべてを教授することは困難であるので、特に重要な分野とそれ以外の分野を明確にし、授業内容について到達すべき目標、知識、技能を明らかにしている。</p>	

最終更新日付	平成 26 年 3 月 31 日	記載責任者	葉山 直史
--------	------------------	-------	-------

3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-12-3 学科のカリキュラムは、目標達成に向け十分な内容でかつ体系的に編成されているか	基本的なカリキュラムは指定規則に基づき編成しているが、加えて、学生の質の変化に対応するためにカリキュラムを通じての動機づけを目指す。	指定規則で定められたカリキュラムを基に、特に実技、実習の時間を多く設け、卒業後の活躍を見据えたカリキュラムとしている。		柔道整復師学校養成施設指定規則
3-12-4 カリキュラムの内容について、業界など外部者の意見を反映しているか	積極的に業界や他施設の教員との意見交換を行い、教育内容に反映していく。	教育課程編成委員会にて業界で活躍されている委員と意見を交わしている。また、年3回程度開催の職員会議においても兼任教員から意見を頂戴しているほか、柔道整復学校協会の教員研修会においても情報交換や意見交換を積極的に行っている。	さらに柔道整復学校協会加盟校や大学との関係を構築し、今まで以上に綿密な意見交換を行い、さらなるカリキュラムの錬成に努めたい。	柔道整復学校協会教員研修会 職員会議議事録 教育課程編成委員会議事録
3-12-5 カリキュラムを編成する体制は明確になっているか	学科長を中心に全教員の協議によりカリキュラムを編成する。	全教員参加の学科会議により、カリキュラム決定を行っている。		森ノ宮医療学園専門学校学則
3-12-6 カリキュラムを定期的に見直しているか	業界の意見を取り入れながら、科目の重要性を勘案し、科目の単位時間、内容等を見直す。	施術治療や広く医療にかかる状況等の変化と新たな知見により、変化した部分や不都合が生じた場合、臨機応変な学則改訂を関係所轄庁と相談の上行い、カリキュラムを定期的に見直している。	さらに、状況を判断し、見直しの必要な部分を検討できるような体制の維持に努める。	森ノ宮医療学園専門学校学則

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>教育内容の多くは、指定規則により規定される部分が多く、体系的に編成するには教育期間を考慮すると十分とは言えない。その中でも可能な限り体系的に編成するよう努力をし、より効率的なカリキュラムの構築を目指し、定期的カリキュラムを見直す作業を行っている。</p>	<p>前述のように、教育内容は指定規則に規定された内容以上になっている。</p>

最終更新日付	平成 26 年 3 月 31 日	記載責任者	葉山 直史
--------	------------------	-------	-------

3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-13-7 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか	適正な位置付けを目標としている。	概ね適正に位置付けされている。		
3-13-8 各科目の指導内容、方法等を示したシラバスが作成されているか	各科目の指導内容、方法等を学生が学習に役立てやすいよう示したシラバスを作成する。	現在新たなシラバス作成に向けての体制の構築を検討している。	現在のところシラバス改定に向けた体制の構築は充分とは言えない。	
3-13-9 各科目の一コマの授業について、その授業シラバスが作成されているか	全科目、全授業についてシラバスが作成されている。	シラバスに則り授業が行われているが、新たなシラバスの作成に向けて体制の構築を検討している。	現在のところ柔道整復学科の授業シラバスは充分とは言えない。	

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
シラバスは授業の重要な部分を占める。積極的な取り組みを行っていききたい。	

最終更新日付	平成 26 年 3 月 31 日	記載責任者	葉山 直史
--------	------------------	-------	-------

3-14 キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-14-10 キャリア教育が行われているか	本校においては教育課程全体が職業教育となっており、その中において、教員が正しくキャリア教育を理解し実現することを目標とする。	国家試験合格を目標とするのではなく、合格後を見据えた教育を行っており、出来る限り現役の柔道整復師と接する機会を設けている。	国家試験不合格の学生に対する指導を充実させることが重要と考える。	
3-14-11 キャリア教育の実効性は検証されているか	国家試験合格率が一つの指標であるが、卒業後の進路についても把握していく。	在校生、卒業生ともに希望者への就職指導、就職支援は行っている。	卒業生の進路については把握しきれていない。今後、定期的な調査を行うことも検討したい。	

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
本校は柔道整復師養成校であることから、課程自体がキャリア教育そのものであると言える。卒業後の進路についてもフォローしていく必要はある。	

最終更新日付	平成 26 年 3 月 31 日	記載責任者	葉山 直史
--------	------------------	-------	-------

3-15 授業評価の実施・評価体制はあるか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-15-12 学生による授業評価を実施しているか	各学年次の科目終了ごとに5段階評定と自由記述による授業評価アンケートを実施する。	各学年次の科目終了前の授業時間中に記名式授業評価アンケートを行っており、回収率は90%以上である。	現在、学生による授業評価アンケートの結果を受け、教員に対してのフィードバックをいかにするかを検討中である。	平成25年度授業アンケート
3-15-13 授業内容の設計や教授法等の現状について、その適否につき学科や学校として把握・評価する体制があるか	アンケート結果について、各担当者にフィードバックするとともに学科においても授業改善の検討材料とする。	各担当教員には、学生からの授業評価の集計一覧を手渡し、参考にしてもらっているが、学科としての評価は行っていない。 一部の教員は積極的に現状を把握し、学生からの評価を活用している。	学科としての評価基準やフィードバックの仕方については、今後検討が必要。	平成25年度授業アンケート

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>授業改善や講師・教職員の資質の向上を図るために、授業評価の実施・評価体制は重要と考えている。</p> <p>評価体制としては、学生による授業評価アンケートのみでなく、今後は講師間での公開授業などを通して、それぞれの講師の専門性の相互理解や評価を行うことなどを検討する予定である。</p>	

最終更新日付	平成26年3月31日	記載責任者	葉山 直史
--------	------------	-------	-------

3-16 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-16-14 学科の育成目標に向け授業を行うことができる要件（専門性・人間性・教授力・必要資格等）を備えた教員を確保しているか	教授資格等、各要件を満たしている教員を採用し、教育力充実を目指し、育成していく。	採用時に履歴書の確認の他、本校卒業生の場合は在学中の成績や学習姿勢などを重視し、面接面談等を実施して採用決定している。採用後は学内外においてFDを実践している。	結果的に自校卒業生の採用が多くなっている。その場合、教育期間中に教員適性や人間性、学力についてはほぼ把握できているが、今後より幅広く多様な人材を採用するには、現在の採用基準に加え、新たな基準作りが必要と考えている。	教員資格保有の証票類等
3-16-15 教員の専門性レベルは、業界レベルに十分対応しているか	実際の臨床現場で活躍している教員を採用し、業界レベルに対応するが、専門性に特化しすぎないように留意する。	臨床に携わっている教員の採用および臨床の継続を推奨している。	教育力と臨床力とは必ずしも一致する訳ではなく、教員適性の高い人材を継続的に確保するための体制を整備したい。	
3-16-16 教員の専門性を適宜把握し、評価しているか	教員の専門性の把握を行い、適切な教科を担当させる。	教員採用時の面接等で専門性は把握している。	教員間での評価は客観性や専門性から難しい側面があるため、評価委員会等の設置の検討が必要。	
3-16-17 教員の専門性を向上させる研修を行っているか	専門性について深め、個人研究および関連学会等の参加について、学校として奨励する。	各教員に対し、個人学術費を予算化している。研究計画の内容により個人学術費の中から、研究支援を行っている。	学校内での専門性を高める研修は難しく、積極的に外部施設や大学医学部・歯学部との連携が必要となる。	平成 26 年度個人学術計画書 平成 25 年度個人学術報告書

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-16-18 教員の教授力(インストラクションスキル)を適宜把握し、評価しているか	基礎的な教授力は極めて重要であり、不断のインストラクションスキル向上を目指す。	授業評価アンケートにより各教員の教授力を把握しているが、組織として評価委員会等は設置していない。	教員に対する評価委員会等の設置が必要と思われる。	平成25年度学生アンケート
3-16-19 教員の教授力(インストラクションスキル)を向上させる研修を行っているか	学内外の研修へ参加しやすい体制を整え、教授力向上を促す。	柔道整復学校協会主催の教員研修会に参加により教授力の向上を図っている。	学内での個人に対する研修は特に十分とは言えないが、学内・外で教員が一般向け公開講座等々を行うことでインストラクションスキルを上げるよう努力している。	柔道整復学校協会教員研修会抄録 公開講座等広報ポスター
3-16-20 教員間(非常勤講師も含めて)で適切に協業しているか	必要に応じ連携、協議する。	専任教員間においては普段から活発な意見交換を行っている。		
3-16-21 非常勤講師間で適切に協業しているか	密接なコミュニケーションにより、一層の教育効果を得る。	授業報告書等の提出までは求めている。	各教科の授業報告書はなく、申し送り等の情報がある程度で、十分ではない。将来においては授業報告書の作成を義務づけ、それを元に会議等の開催が必要と思われる。	

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-16-22 非常勤講師の採用基準は明確か	教員資格、適性等を勘案し採用する。	採用時に履歴書その他、面接等を実施して判断している。		教員資格保有の証票類等

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
本校は、臨床の第一線にいた鍼灸師により創設された経緯がある。本校の精神的支柱となってきた建学の精神「臨床に優れ、かつ豊かな人間性に裏打ちされた医療人を育成する」に基づき、教育に携わる教員については、臨床経験豊富な教員をそろえ、また育成を図っている。	

最終更新日付	平成 26 年 3 月 31 日	記載責任者	葉山 直史
--------	------------------	-------	-------

3-17 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-17-23 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	成績評価・単位認定の基準について明確にし、事前に学生に提示する。	筆記試験・実技試験により成績評価を行っている。試験において一定の評価以上を獲得し、規定の出席数を満たしている者が単位を認定される。	一部の科目によっては、担当教員の違いによりコースごとの試験難易度にばらつきが見られるため、試験選考委員会を立ち上げるなど成績評価基準や単位認定要件の吟味が必要と思われる。	森ノ宮医療学園専門学校教務規程 平成 25 年度学生手帳
3-17-24 他の高等教育機関との間の単位互換に関する明確な基準があるか	単位互換については、指定規則に則り行う。	指定規則および本校学則に則り単位互換を実施している。	本校学則により、必要に応じて試験等により評価した上で単位互換を実施しているが、今後は試験を課すべきか検討が必要と思われる。	森ノ宮医療学園専門学校学則

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
成績評価・単位認定については、本校で規定した内容で運営している。単位互換については、認定規則に則り行っている。	

最終更新日付	平成 26 年 3 月 31 日	記載責任者	葉山 直史
--------	------------------	-------	-------

3-18 資格取得の指導体制はあるか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-18-25 目標とする資格はカリキュラムの上で明確に定められているか	指定規則により、カリキュラムの内容が規定されている。本校においてはカリキュラムそのものが資格取得のためのものとなっている。	本校カリキュラムは指定規則に規定された内容以上の単位数となっており、加えて、実技・実習をより多く取り入れている。	指定規則に規定される部分が多く、それ以上の特色を出すことが今後さらに必要と思われる。	森ノ宮医療学園専門学校学則
3-18-26 目標とする資格の取得をサポートできる教育内容になっているか	指定規則に則り、国家資格取得のための授業内容とする。	3年次の9月以降については、国試対策にも重点を置いており、平成25年度から三科目模試を実施している。	現状でも十分な成果を上げているが、入学生の学力低下の対策としてより効率的な科目配置の検討が必要と思われる。	

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
最終目標は、国家試験合格であり、それに対する授業も行いつつ、学力不足の学生に対しては、個別指導や補講といったかたちでサポートをしている。卒業後も国家試験不合格者に対しては聴講制度による指導を行っている。	

最終更新日付	平成26年3月31日	記載責任者	葉山 直史
--------	------------	-------	-------

基準 4 教育成果

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>本校の明示的な教育成果は国家試験合格であるが、もともと臨床に強い医療人の育成を掲げていることから、卒業後の進路についても手厚い指導が必要である。</p> <p>学内においては、授業時間以外に希望者に対しゼミ形式での講座を開講し、座学のみならず実技指導の場も提供している。また、外部組織による勉強会等も日頃から幅広く校内で実施している。</p> <p>近年、業界の様相が変化していることから、将来に希望が持てないという学生も増えてきている。ただ、いかなる状況になろうとも、鍼灸師あるいは柔道整復師の需要が全くなくなるわけではないので、資格取得と併せ職業としての魅力を伝えていけるよう、学生に対する指導も粘り強く行っていきたい。</p>	

最終更新日付

平成 26 年 3 月 31 日

記載責任者

初瀬川 初雄

4-19 就職率(卒業生就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
4-19-1 就職率(卒業生就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか	就職希望者の就職率 100%を目標とする。	学務課へ相談に来る学生に対し、就職完了まで支援を行い、「就職相談会」も実施している。学生自ら web で求人検索することも可能としている。	就職先保有件数が増え、学生にとって売り手市場になり、学生が就職先を確定することに優柔不断となっている。	
4-19-2 就職成果とその推移に関する情報を明確に把握しているか	就職成果とその推移に関する情報を公表する。	年度報告資料を作成することにより、具体的な件数は掌握できている。	就職後の卒業生の状況を把握するため、就職先にアンケートを実施することを検討している。	

点検中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
元々、就職という概念がない業界にあって、他校に先駆けて求人先の確保に務めてきた。その取組みの一つとして、11年前に業界初の「就職相談会」を開催し毎年実施している。加えて、全求人先が一切の営業活動なしに、口コミのみで集めたものであることも特筆できる。	技術力向上のために転職が当たり前の業界であり、転職活動が活発であるので、卒業生の勤務先追跡調査は困難を極めている。 また、この業界の悪い特徴として社会保険等の福利厚生が整っていない就職先が多いことが、他業種に比べ魅力を無くしている要素の一つになっている。

最終更新日付	平成 26 年 3 月 31 日	記載責任者	初瀬川 初雄
--------	------------------	-------	--------

4-20 資格取得率の向上が図られているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
4-20-3 資格取得率の向上が図られているか	目標としては 100%とされている。	国家試験合格率は常に全国平均を上回り、90%前後を達成している。	国家試験合格率 100%を目指すためには、あと少し及ばない学生に対しての指導体制を考える必要がある。	国家試験学校別合格番号一覧表
4-20-4 資格取得者数とその推移に関する情報を明確に把握しているか	資格は国家資格であり、合格者の実数が常に公表されるので把握できている。	国家試験への出願も学校を通して行うことから受験番号も全て把握できており、合格者についても明らかである。		国家試験学校別合格番号一覧表

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
ある程度達成できていると考えるが、国家試験合格にあと一步足りないというような学生がいるのも事実である。今後はこのような学生に対してより一層の指導体制の整備が必要と考えられる。また、国試浪人者へのフォロー体制も強化していく必要がある。	

最終更新日付	平成 26 年 3 月 31 日	記載責任者	初瀬川 初雄
--------	------------------	-------	--------

4-21 退学率の低減が図られているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
4-21-5 退学率の低減が図られているか	進路の変更や経済的理由などやむを得ない退学は別として、当該本人と面談を重ね、適切な指導を行う。	担任を中心に教職員が該当学生と話し、さらに保護者等関係者との面談を行うなどコミュニケーションを図っている。	さらに該当学生とのコミュニケーションをはかれるよう教職員に勉強会や研修会を行っている。	
4-21-6 入退学者数とその推移に関する情報を明確に把握しているか	入退学者数とその推移に関する情報について把握する。	入学者はもちろん、退学者の情報についても学内への周知を徹底している。学生数を含む学籍情報についての管理は出来ている。		

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
退学率 0%（入学者全員の卒業）を目標として、教員と学生のコミュニケーションを取り、学生支援体制の整備、カウンセラーの活用、診療所（内科・鍼灸室）による健康管理を充実させ、心身および経済的バックアップによる退学率低減を図っている。また退学者に関する情報も学内で共有できている。	

最終更新日付	平成 26 年 3 月 31 日	記載責任者	初瀬川 初雄
--------	------------------	-------	--------

4-22 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
4-22-7 卒業生・在校生の社会的活躍及び評価を把握しているか	教育内容の改善という観点から、在校生はもとより卒業生の動向についても把握する。	在校生への求人状況から一部の卒業生の開業状況は把握できている。また、業界団体役員や学会での世話役等についても把握できている。	業界を離れていく卒業生の把握が困難を極めている。	
4-22-8 卒業生の例として特筆すべきものを記述できるか	社会に活躍・貢献しうる人材の育成を目標としているが、特筆にあたらぬ卒業生も地道に地域の医療活動に貢献している。特筆すべき医療人だけが本校の目指す全てではない。	本校は社会に貢献できる医療人を育成している。卒業生の病院等での活躍や開業が外部からの評価であり、学術的発表も評価されているので、例を出すには事欠かない。	さらなる卒業生との連携と、業界や学会をリードする人材の育成を目指す。	
4-22-9 在学生や卒業生の作品や発表が、外部のコンテスト等で評価されたか	外部においても評価されうる人材の育成を目標としている。	本校は社会に貢献できる医療人を育成している。卒業生の病院等での活躍や開業が外部からの評価であり、学術的発表も評価されている。		
4-22-10 在学生や卒業生の作品や発表が、外部のコンテスト等で評価された例として特筆すべきものを記述できるか	外部においても評価されうる人材の育成を目標としている。	在校生は学術大会等の場で発表。卒業生も内外の学術大会での発表、投稿を多数しており、評価されている。		

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
本校卒業生は医療の現場で高い評価を得ている。卒業生・在校生のさらなる活躍が期待できる環境作りを行い、業界での成功者や指導者を輩出した。	

最終更新日付	平成 26 年 3 月 31 日	記載責任者	初瀬川 初雄
--------	------------------	-------	--------

基準5 学生支援

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学生支援の中でも特に就職相談と学費相談に力を入れている。</p> <p>就職支援では、他校と比べ社会人経験をした学生の割合が高いため、自主的に就職活動を行う者、在学中に就職や開業している者も多い。しかし、社会人経験のない学生にとっては初めての就職活動であるため、就職相談会、履歴書作成・面接対策などの対応、個別相談など学生がスムーズに就職できるよう配慮している。</p> <p>学生の将来を決める就職は特に重要である。医療人を養成する本校では、卒業生を送り出すことだけが目標ではなく、卒業後社会において、活躍し、業界に貢献し発展させる担い手になることが、結果的に本校の教育の評価にも繋がるので、支援体制を整えることは重要と考えている。</p> <p>また、最近の傾向として経済的に不安定な環境に置かれている学生も多く、そのためにも経済的な理由で退学することがないように学費相談を行っている。奨学金、教育ローン、就職先等を紹介し、学生が国家資格取得し医療人に辿り着けるよう支援体制を整えている。</p>	<p>左記でも述べたが、在学中に就職や開業する傾向が強い業界であるため、学生の進路を確認するのに手間取る。また、卒業時点で就職先を特定できたとしても、そのあと転職・開業したか否かまで追跡するのは困難である。そもそも、転職によってスキルアップをしていく業種でもあるので、数年での転職は珍しくなく、転職を重ねながら技術を習得・確立することがこの業界の特徴でもある。</p>

最終更新日付	平成 26 年 3 月 31 日	記載責任者	初瀬川 初雄
--------	------------------	-------	--------

5-23 就職に関する体制は整備されているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-23-1 就職相談室の設置など就職支援に関する体制は整備されているか	本校への多数の求人票を基に、個別の就職支援を行い、卒業時、在学時を問わず、高い就職率を維持する。	アルバイトや就職についての相談担当窓口は学務課で行い、マンツーマンによる支援を行っている。また、年数回の就職・開業支援講座を開催している。卒業生に対しても Web 上で閲覧出来るようにしている。	個室の確保が望まれる。	学校法人森ノ宮医療学園業務分掌規程
5-23-2 就職に関する説明会を実施しているか	本校では全ての学生が卒業時に一斉に就職するわけではないので、就職説明会よりも個別の対応が重要である。ただ、一方で近年の就職意識の希薄化への対応として、就職ガイダンス実施も検討したい。	全体に対する就職ガイダンスという形はとっておらず、学務課を中心とする個別の就職支援に重点を置いている。年に一度、3年生対象の就職相談会は行っている。		
5-23-3 就職に関する学生個別相談を実施しているか	本校学生は年齢も職業も多種多様であることから、就職に関する支援は学生ごとの個別相談を中心とする。	学務課による個別相談を随時行っている。就職が決まるまでサポートを行っている。		
5-23-4 就職の具体的活動(履歴書の書き方など)に関する指導を実施しているか	就職先と学生との橋渡しに終わらない就職支援として、就職活動に関する支援を行う。	学務課による年数回の就職・開業支援講座により、職業意識、履歴書の書き方、面接のマナーなどを指導している。	現在は希望者に対する支援に止まっており、今後は3年生対象に就職ガイダンスの実施を検討したい。	

点検中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
本校の現状に鑑み、就職支援は個別対応が中心となっている。学生支援の中でも就職支援に関しては比較的手厚く、丁寧な対応が出来ている。	

最終更新日付	平成 26 年 3 月 31 日	記載責任者	初瀬川 初雄
--------	------------------	-------	--------

5-24 学生相談に関する体制は整備されているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-24-5 学生相談室の設置など学生相談に関する体制は整備されているか	専任カウンセラーを中心として教職員の密接な連携により対応する。	在校生・卒業生からの相談は、現状、個々の教職員で対応している。		
5-24-6 学生からの相談に応じる専任カウンセラーがいるか	学生からの相談に応じる専任カウンセラーを常置する。	現在、週1回のペースでカウンセラーによる相談を行っている。	学生のさらなる活用促進とカウンセラーの常駐化が求められる。	
5-24-7 留学生に対する学生相談体制は整備されているか	留学生に対する学生相談体制を整備、拡充する。	留学生に特化した相談体制とはなっていない。平成25年度の留学生は1名である。		

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
現在教職員を中心に学生相談への対応を行っているが、学生相談については多岐にわたっているため、担当制では限界があると考え。専任カウンセラーの常駐が求められている。	学生時代に教職員が相談相手になることで、卒業後の帰属意識も高まっているように感じている。心理衛生面のように専門家に委ねるところは委ねるが、その他の相談については、これまで通りの対応が良いと考える。

最終更新日付	平成26年3月31日	記載責任者	初瀬川 初雄
--------	------------	-------	--------

5-25 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-25-8 奨学金制度は整備されているか	学生の経済面でのサポートを図るべく、国の奨学金制度をはじめ複数の奨学金制度を紹介している。	日本学生支援機構学金と大阪市信用金庫や民間の教育ローン制度があり、学生の状況に応じ適宜紹介している。	年々奨学金を貸与して修学している学生が増加している。奨学金の他に教育ローン等の案内もしている。	
5-25-9 学費の分納制度はあるか	分納、延納を認め、その上で、学生にとってより良い方法を模索していく。	学生ごとに経済状況に応じた学費の納付方法についての相談を受け付けている。		

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学費の滞納については、本校に限らず現在の経済状況から増加の傾向にあると思われる。そのような中で延納・分納制度も奨学金同様、志を持つ学生が経済的理由で退学することを防ぐためのものである。	

最終更新日付	平成 26 年 3 月 31 日	記載責任者	初瀬川 初雄
--------	------------------	-------	--------

5-26 学生の健康管理を担う組織体制はあるか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-26-10 定期的に健康診断を行うなど学生の健康面への支援体制はあるか	一年に一度全学生対象に健康診断を実施する。	附属診療所において、全学生に対して健康診断を実施している。		健康調査票
5-26-11 学生からの健康相談等に専門に応じる医師・看護師等がいるか	学生からの健康相談等に専門に応じる医師・看護師等を常駐する。	本校の場合、教員が医療資格者であることから、普段から学生からの健康に関する相談は活発に行われている。また、附属診療所の活用も行っている。		

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
そもそも教員が医療資格者であり、また、附属診療所を擁することもあり、学生の健康管理体制は一般的な学校と比べて整っていると考える。	

最終更新日付	平成 26 年 3 月 31 日	記載責任者	初瀬川 初雄
--------	------------------	-------	--------

5-27 課外活動に対する支援体制は整備されているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-27-12 スポーツ等のクラブ活動、その他、課外活動に対する支援体制は整備されているか	スポーツ等のクラブ活動、その他、課外活動に対する支援体制を充実する。	課外活動の運営は、学生会に全権を持たせて、学生同士の話し合いの中で決定している。土日祝日の校舎の空いている時を利用して、各種勉強会の場を内外に開放している	クラブによっては、部員数の減少から、存続の危機に立っているクラブもある。他の専門学校生からも参加希望があるので、学内での部員充足への広報も必要と考える。	

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
課外活動に費やす時間の確保が困難であるため、クラブ活動等は決して活発ではないが、そのような中でも活動している学生への支援は行ってきたい。	

最終更新日付	平成 26 年 3 月 31 日	記載責任者	初瀬川 初雄
--------	------------------	-------	--------

5-28 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-28-13 遠隔地出身者のための学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか	要望があれば十分な支援を行う。	新卒での地方出身者が少なく、実績は多くない。希望者には、大専各認定の不動産業者を推薦している。		

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
もともと生活環境が確立した学生の入学比率が高いことから、具体的な支援実績は多くはないが、今後は高校新卒者の入学の増加が見込まれることから、支援についても拡充させていきたい。	地方での卒後研修のためのワンルームマンションについては、校友会協力の下、一部家賃負担している場合もある。

最終更新日付	平成 26 年 3 月 31 日	記載責任者	初瀬川 初雄
--------	------------------	-------	--------

5-29 保護者と適切に連携しているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-29-14 保護者と適切に連携しているか	未成年者の学生に対しては保護者と適切に連携することを目標とする。	未成年者の学生における学費未納入、不登校者については、保護者と連携の上、本校教職員が複数名で対応している。		

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
特に学費の滞納に対しては、保護者との連携が大切であると考えている。面談等により、お互いにとって有益な解決方法を模索している。	

最終更新日付	平成26年3月31日	記載責任者	初瀬川 初雄
--------	------------	-------	--------

5-30 卒業生への支援体制はあるか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-30-15 同窓会が組織化され、活発な活動をしているか	同窓会による定例会議、予算管理等を充実し、卒業生情報を管理する。	「森ノ宮医療学園校友会」組織を結成している。	専門学校と大学と一緒にしているが、将来的にはかなりのボリュームになることが予想されるので、分化も考える必要性がある。	森ノ宮医療学園校友会議事録 森ノ宮医療学園校友会会報
5-30-16 卒業生をフォローアップする体制が整備されているか	支援内容により、事務局あるいは同窓会にて支援を行う。	再就職支援、校友会による臨床用ベッド貸し等施術スペースの提供、地方への訪問活動などを実施している。		

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
開校から40年を迎え、多くの卒業生を輩出してきている。本校にとっては財産ともいえる卒業生との連携が今後ますます重要になってくると考えられる。	

最終更新日付	平成26年3月31日	記載責任者	初瀬川 初雄
--------	------------	-------	--------

基準 6 教育環境

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>日常の清掃業務を外部委託していることもあってか、校舎内、玄関周辺の美化には経費をかけてきた甲斐あって、学生や来校者からの評価は頂いているものの、現実的には本校舎において、老朽化に伴う汚れ、耐震面での改善は充分とは言い難い。付帯している設備についても、古いものについては入れ替え時期にきているものもあり、中期的にとは言っていない状況の部分もある。</p>	<p>通常の授業に必要な部分のみならず、自習環境の向上も心がけている。学生用 PC の台数増、自動販売機の台数増、コピー機の台数増、玄関周辺の植栽等、学園生活の環境改善にも力を入れている。</p>

最終更新日付

平成 26 年 3 月 31 日

記載責任者

川鍋・出口

6-31 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
6-31-1 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	法令に基づき、日々の安全性、美化、整理整頓に全職員が努める。	法令で定められている以上の教育環境の整備を心がけている。	在校生数に対して、カウンセリングルームが不足している。	
6-31-2 施設・設備のメンテナンス体制が整備されているか	外部委託はもとより、担当職員による保守、点検を行い、施設・設備の維持管理に努める。	毎日、担当職員が目視で点検を行っているほか、定期的に専門業者によるメンテナンスを行っている。加えて、学生および清掃担当者からも意見を聴取し、不具合等があれば直ちに対応している。		
6-31-3 施設・設備の更新に関する計画を立て、計画通りに更新しているか	施設・設備の更新に関しては中期計画に基づき遂行する。	カリキュラム変更等により、現状の施設・設備では、不十分な部分もあり、随時、更新計画を変更、遂行中である。		

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
施設・設備の点検、メンテナンスについては職員および専門業者により実施している。校舎施設では、実技室の整備が急務となっている。現在、「建物中長期保全計画」を立案中である。	

最終更新日付	平成 26 年 3 月 31 日	記載責任者	川鍋・出口
--------	------------------	-------	-------

6-32 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか
--

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
6-32-4 学外実習、インターンシップ、海外研修等について外部の関係機関と連携し、十分な教育体制を整備しているか	学外実習、インターンシップ、海外研修等について外部の関係機関と連携し、十分な教育体制を整備し、遂行する。	毎年、鍼灸学科では中国での海外研修旅行を企画している。また、フロリダ代替医療大学や Pacific College of Oriental Medicine でのアメリカ研修も企画、実施している。柔道整復学科においてはアメリカの南オレゴン大学等で短期滞在を行っている。	グローバル化の流れに伴い、研修先も含め、海外の機関との提携を深め、より詳細な連携を取る必要がある。	
6-32-5 学外実習、インターンシップ、海外研修について、その実績を把握し教育効果を確認しているか	学外実習、インターンシップ、海外研修について、その実績を把握し教育効果を確認する。	研修終了後、生活態度の改善や学業成績の向上などが見られる。学生の満足度も高い。	大抵の場合、任意での研修参加になるので、その費用面での補助制度の確立が急務である。	

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
中国研修や南オレゴン大学での研修などでは、参加後の学生の表情が一変するほどの効果を上げている。今後も更なる充実と拠点展開を行っていきたい。	

最終更新日付	平成 26 年 3 月 31 日	記載責任者	川鍋・出口
--------	------------------	-------	-------

6-33 防災に対する体制は整備されているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
6-33-6 防災に対する体制は整備されているか	校長を頂点とした防災の体制を整え、災害発生時には速やかなる対応を行う。	体制は整備されている。災害図上訓練、専門の講師による防災セミナー、地域防災訓練など、職員の防災意識向上のための訓練・セミナー等を実施している。	引き続き、シミュレーション・セミナー等随時実施していく。	
6-33-7 災害を起こす可能性のある設備・機器等の情報は十分に伝えられているか	校内の設備・機器等の情報の共有を行い、災害時への対応を含め校内への周知を行う。	災害時における附属診療所のレントゲン撮影装置の危険性などの情報が十分に周知されていない。	情報が十分伝わるよう、さらなる検討が必要である。	
6-33-8 実習時等の事故防止の体制は十分か	実習時は常に教員の監視が行き届くようにし、事故防止に全力を尽くす。	教員の監視のないところでの実習・実技を禁じ、事故や怪我の無いよう努めている。万一の場合は担当教員から診療所医師への連絡を行う。		
6-33-9 万が一の災害が起きた場合に備えた保険等の処置は十分なものとなっているか	保険に加入する。	災害時の保険はもとより、損害保険に学生、教職員学校全体で入っている。		

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
6-33-10 防災訓練を実施しているか	さまざまな状況を想定した防災訓練を、年2回程度実施しなければならない。	年2回、学生も参加する防災訓練を実施している。また、防災担当者は年2回消防局が開催する講習会に参加している。	東日本大震災は決して他人事ではない。「防災に完全はない」との意識をもって、さらに防災意識を高めていきたい。	

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
万一の災害に対して、防災意識を高め、防災訓練を通じて、防災の意義を高めていきたい。	医療系の学校として、地域住民からの期待も大きい。

最終更新日付	平成26年3月31日	記載責任者	川鍋・出口
--------	------------	-------	-------

基準 7 学生の募集と受け入れ

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>1. 学生募集</p> <p>入学試験の実施については、大阪府専修学校各種学校連合会の基準に基づいて実施している。</p> <p>学校パンフレットについては、卒業生や在校生のメッセージを多用し、本校の様子が実例をもとに、わかりやすく伝えることに努めている。</p> <p>オープンキャンパスを数多く実施し、本校の特徴をよく理解して入学してきてもらうことに力を入れている。また、オープンキャンパスに在校生も出席してもらい、個別相談等で直接、見学者に学校の様子について話してもらっている。</p> <p>また、主に高校生受験者の保護者、保証人を対象とした説明会も別途開催している。</p> <p>受験生の多くが、卒業生から本校の情報を聞いたことが志望動機となっていると話しており、これが本校の大きな特徴と考えているが、それらを客観的に分析する指標を持っていないことから、今後検討をしていく必要がある。</p> <p>2. 入学選考</p> <p>入学選考は、学則に基づき適正に実施している。選考は判定会議を実施し、公平に審査し、決定している。</p> <p>入学辞退者に対する対応は、連絡窓口を明確にし、規程に則り所定の手続きによって、授業料を返還し、適正に行っている。</p> <p>3. 学納金</p> <p>3年間に必要な学納金を提示し、かつ学年ごとに必要な費用についても詳細がわかるように情報提供している。</p>	<p>1. 学生募集</p> <p>従来より受験者数が減少する傾向にあった。平成 26 年度学生募集においては、経済的な問題等で入学を辞退した合格者が少なからずいたこともあり、初めて目標とする定員を満たすことができなかった。特に社会人受験者の落ち込みが著しい。今後は、より丁寧に本校の特徴をアピールしていくとともに、職業の魅力をしっかりと伝えていくことが重要と考えている。</p> <p>資格の特性について理解してもらうために、学校パンフレットとは別に、職業紹介のリーフレット等も制作し、卒業後のイメージも描くことができることを重視している。</p> <p>本校では多くの卒業生が卒業後も学校を訪れてくれる校風があり、募集活動においても、卒業生の存在が大きく寄与していると考えているが、それらを客観的に分析してきたことはなく、今後検討していく必要があると感じている。</p> <p>2. 入学選考</p> <p>従来は社会人経験者の入学生が非常に多かったが、近年は高校新卒者の比率が増えてきており、個人情報の取扱に留意しつつ、高校との連携を深めていかなければならないと考えている。</p> <p>3. 学納金</p> <p>教育ローンや奨学金制度の説明については、さらにわかりやすい情報提供が必要と考えている。</p>

最終更新日付	平成 26 年 3 月 31 日	記載責任者	尾崎・小笠原(宏)
--------	------------------	-------	-----------

7-34 学生募集活動は、適正に行われているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
7-34-1 学生募集活動は、適正に行われているか	大阪府専修学校各種学校連合会の入試選抜基準に基づいて入試を実施している。	校内に組織横断的チームを編成し、教職員協同による募集活動を行っている。またオープンキャンパスを数多く開催し、本校の教育方針や教育スタイルについての理解を深めてもらう努力をしている。オープンキャンパスには在校生にも参加してもらい、個別相談において来場者に自由に学校の現状を話してもらう環境をつくっている。	高校への認知度を高めるための高校生対象セミナー、社会人の入学促進のために社会人対象セミナー等を実施してきている。これらは高校や社会人セミナーの参加者から高評価をいただいております、さらに充実を図っていききたい。	森ノ宮医療学園専門学校学生募集要項 森ノ宮医療学園専門学校学校案内
7-34-2 学校案内等は、志望者・保護者等の立場に立った分かり易いものとなっているか	在校生や卒業生に協力してもらい、教育内容や学校生活、卒業後の進路が具体的にイメージしやすい内容を心がける。	学校案内等は、毎年リニューアルを行うとともに、3年ごとの完全刷新を行い、最新の状況を提示できるようにしている。また補助媒体の随時作成も行っている。	本年度より保護者説明会を開催したところ高い評価をいただいている。今後はさらにわかりやすい言葉で伝えていく努力が必要であると考えている。	森ノ宮医療学園専門学校学生募集要項 森ノ宮医療学園専門学校学校案内
7-34-3 志望者等の問い合わせ・相談に対応する体制があるか	入試、広報の担当者だけでなく、他の教職員も対応できるように準備する。	各学科の教員を含め、複数部署の人員から構成されるチームが組織され、相談内容に応じた対応を行っている。	志望者等の問い合わせ・相談に対応できる人員を多く配置しているが、より多くの教職員が対応できるように情報共有を行っていききたい。	学校法人森ノ宮医療学園組織図

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
7-34-4 募集定員を満たす募集活動となっているか	目標とする入学定員充足のみならず、入学者選考ができる受験者数を確保することを目標としており、教員、広報担当者、入試担当者を中心とした組織横断的なチームを編成して取り組む。	平成 26 年度募集では、主に社会人志望者が大きく減少し、募集定員を充足できない結果となった。	従来からコースによって、募集力に差があったが、その傾向に変化がみられてきており、社会の情勢を分析し、分かり易い情報提供を心掛けることで、是正を図っていきたい。	平成 25 年度学校基本調査

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
入試広報に関するチームを編成し、学園案内、志望者および保護者への対応、入学試験が一元管理されている。	学校見学者数、および受験数は減少傾向にある。また合格後の辞退者も増加傾向にある。平成 26 年度募集では、目標とする入学定員充足に至らなかったが、本校の特徴をわかりやすく説明する努力を、より一層おこなっていく必要がある。

最終更新日付	平成 26 年 3 月 31 日	記載責任者	尾崎・小笠原(宏)
--------	------------------	-------	-----------

7-35 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
7-35-5 学生募集において、就職実績、資格取得実績、卒業生の活躍等の教育成果は正確に伝えられているか	臨床に即した教育の実践が基本的な教育方針であり、資格取得はもちろんのこと卒業生の活躍こそが本校の存在意義だと考えている。	求人件数については実数を公開し、資格取得実績についても国家試験受験者数とともに合格率を公開している。	情報量の増加に伴い、目的の情報へのアクセスがわかりにくくなりつつあるので、わかりやすい提示方法を検討していきたい。	森ノ宮医療学園専門学校学校案内 森ノ宮医療学園専門学校 Web ページ (http://www.morinomiya.ac.jp)
7-35-6 卒業生の活躍の教育成果が学生募集に貢献したかどうか正しく認識する根拠を持っているか	本校への志望動機の中で、「卒業生から本校を推薦されたこと」が最も多い状態を目指す。また、卒業生が学校に訪れてくれる機会作りに努力する。	卒業生が推薦者になっている受験者数が客観的な根拠と考えている。	推薦者を精査したところ、卒業生からの推薦者の割合が非常に高いことが明らかになったが、逆にそれ以外の受験者数が少なく、卒業生以外への認知を高めることが課題である。	

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
本年度は卒業生の紹介による入学金減免制度を実施したこともあり、卒業生の紹介による受験者を正確に把握することができた。	卒業生の情報については、全卒業生の追跡調査までは実施できていない。ただ、卒業後にも来校する卒業生が多くいることから、ある程度の状況を把握できている。今後は、校友会との連携を深め追跡調査の実施を検討し、卒業生の動向を詳細に把握することで、客観的なデータによる分析を行ってきたい。

最終更新日付	平成 26 年 3 月 31 日	記載責任者	尾崎・小笠原(宏)
--------	------------------	-------	-----------

7-36 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
7-36-7 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	すべての入試において、複数の評価基準を設けるようにしている。加えて、学力的指標のみならず、意欲や目的意識も選考の重要な要素と考えていることから、すべての選考基準を数値化し、公平な判定ができる状況を作る。	任命された判定委員による判定会議によって選考されている。	受験者の年齢層が幅広いことから、受験者の意欲を評価できるように多様な入試を行っており、特に面接試験が重要と考えている。入試評価と入学後の成績との相関も面接が最も高いことから、今後も客観的は評価ができる面接官の育成を続けていきたい。	入試判定会議議事録
7-36-8 入学選考に関する情報とその推移を学科ごとに正確に把握しているか	入学選考は教育のスタートとなるものであり、すべての教職員が高い意識を持って取り組むべき課題と考えていることから、常に最新の状況を把握できるようにする。	募集状況についての情報が、各部署に一斉伝達できるシステムをとっている。	コースごとの募集状況に近年、変化がみられてきている。その理由を分析し、より適切な入学選考を実施していきたい。	

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
各部門の責任者と学科教務担当者複数が入試判定委員となっており、それらの判定委員から構成される判定会議を実施することで、適正かつ公平な選考を行うことができる体制をとっている。	近年、高校生の入学者数が増加してきている。今後は高校にも受験状況についての情報が提供できるよう、個人情報の取扱に留意して、高校との連携を深めていきたい。

最終更新日付	平成 26 年 3 月 31 日	記載責任者	尾崎・小笠原(宏)
--------	------------------	-------	-----------

7-37 学納金は妥当なものとなっているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
7-37-9 学納金は、教育内容、学生および保護者の負担感等を考慮し、妥当なものとなっているか	学習しやすい環境、また快適に学生生活を送ることができる環境を提供することを重視しており、教育内容の充実はもとより施設設備面の充実を図る。	学納金の構成が分かりやすいように授業料と実験実習費、年間諸経費を分けて提示している。	より充実した授業内容の提供と、学園環境の整備を図るとともに、学納金についての相談体制を強化していきたい。また意欲ある学生の学ぶ機会を創出するために、次年度に向けて、入学金減免や奨学金等の検討を進めていきたい。	森ノ宮医療学園専門学校学生募集要項 森ノ宮医療学園専門学校学校案内
7-37-10 入学辞退者に対する授業料等の返還について適正に処理されているか	辞退する場合の連絡先や授業料の返還等について募集要項に明記し、迅速な対応を行う。	辞退者には辞退届を提出してもらい、授業料返還等の対応が円滑に遂行できるように体制を整えている。	現在までのところ、大きな問題は生じていないことから、現状の体制を維持発展させるように努めたい。	森ノ宮医療学園専門学校学生募集要項
7-37-11 学納金に関する情報とその推移を学科ごとに正確に把握しているか	学生募集に関するチームは、情報を一元化できるように編成しており、経理担当者も一員となっている。したがって学納金に関する情報も共有できる体制をとっており、適切な対応を目指す。	納付期限の時点で、経理担当から、入試担当部門に状況が報告され、学科ごとに集計できるシステムをとっている。	今年度は相談があった場合の対応について体制整備を行った。社会情勢の変化により、今後も学納金に関する相談が増加することが予想されることから、さらにわかりやすい提示方法を検討していく。	(入試事務室会議資料)

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学納金に関しては、受験生にわかりやすい情報提供を心がけている。また、学習環境や学生生活環境の整備を重視し、教育内容の充実を図っている。	教育ローンや奨学金制度等、学納金サポート情報の重要性が高まってきていると認識しており、学内での情報共有等も図って学生に適切な助言ができる体制を構築していきたい。

最終更新日付	平成 26 年 3 月 31 日	記載責任者	尾崎・小笠原(宏)
--------	------------------	-------	-----------

基準 8 財務

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>中期的には、財務基盤は安定しており、予算・収支計画もここ数年は時間を掛けて吟味されることで妥当性は高まっていると考える。加えて、適切な外部会計監査も定期的に行い、財務情報公開も不十分ながら実施できている。</p> <p>長期的には、学園外部環境の激しく流動的な変化に対応しうる余力はまだまだ乏しいものの、これまで、リスクの大きい投資を一切せずに、堅実に運営をしてきた実績が現状に反映されていると判断する。</p>	<p>開校 42 年目の専門学校が母体となり、単科大学を開設し 8 年目の学校法人であるが、大学も 3 学科体制の運営で財政面でも安定を見込めるようになり、財政規模は学校法人としては小規模であるが、将来に向けての余力を積み上げることのできる状況が出来つつある。</p>

最終更新日付	平成 26 年 3 月 31 日	記載責任者	川鍋・岩崎
--------	------------------	-------	-------

8-38 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
8-38-1 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	中長期的な学校の財務基盤の安定を第一に考え、毎年の事業計画を立てている。	帰属収入が消費支出を上回り、中期的には安定要因が上回っている。	将来の建物建て替え等、大きな支出要因が控えているので、中長期の構想に基づく財務計画が必要となる。	平成 25 年度事業報告書 平成 25 年度決算報告書
8-38-2 主要な財務数値に関する情報とその推移を正確に把握しているか	主要な財務数値に関する情報とその推移を正確に把握する。	主要な財務数値の推移は把握している。	数値推移から経営分析への過程へと精度を上げ、教職員への周知を図る必要がある。	平成 25 年度事業計画書 平成 25 年度予算計画書 平成 24 年度事業報告書 平成 24 年度決算報告書

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
財政基盤は中期的には安定している。長期的には学園外部環境の激変により降りかかってくるであろう予測しえないリスクに対して、積極的な対策までは進んでいない。	専門学校と大学・大学院を持つ学校法人としては、規模が小さい。

最終更新日付	平成 26 年 3 月 31 日	記載責任者	川鍋・岩崎
--------	------------------	-------	-------

8-39 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
8-39-3 年度予算、中期計画は、目的・目標に照らして、有効かつ妥当なものとなっているか	年度予算は中期計画に基づいて立案していくよう啓発。目的・目標に照らして、有効かつ妥当なものとなるよう、時間をかけて精査する。	年度予算は有効で妥当なものとなっている。中期計画は先を見込んで策定されているが、精度を上げていくという課題は残している。	四半期ごと、半期ごとの確認作業で、修正、補正に対応する。	平成 25 年度予算計画書 平成 24 年度決算報告書 平成 25 年度事業計画書 平成 24 年度事業報告書
8-39-4 予算は計画に従って妥当に執行されているか	予算は計画に従って妥当性を持ち、かつ、不測の事態には迅速に執行する。	計画的に執行されている。広報費についても、執行状況を反映させ、予算内に収まるよう予算執行が行われつつある。	月次での確認作業。四半期、半期での確認作業を現場レベルに落とし込む。	平成 24 年度決算報告書

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
年度ごとの予算の執行内容は妥当である。中期的には新規事業に見合う余力を保ち、流動的な執行を常に模索している。	

最終更新日付	平成 26 年 3 月 31 日	記載責任者	川鍋・岩崎
--------	------------------	-------	-------

8-40 財務について会計監査が適正に行われているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
8-40-5 財務について会計監査が適正におこなわれているか	財務について会計監査が随時適正に行われるべきである。	会計監査は、公認会計士のもと適正に行われている。また、監査役として常時理事会に出席されている。	より一層詳細精緻に実施する必要がある。	平成 24 年度監査報告書
8-40-6 会計監査を受ける側・実施する側の責任体制、監査の実施スケジュールは妥当なものか	会計監査を受ける側・実施する側の責任体制、監査の実施スケジュールは計画的に行われるべきである。	外部会計監査は、会計監事と打ち合わせのもとに実施されている。	現状、スケジュールにゆとりが十分あるとはいえない状況下にあるので、専門学校、大学、附属診療所、各々での業務分掌を明確化し、業務全体の横の流れを構築、実施できるレベルにまで落とし込む。	平成 24 年度監査報告書

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
会計監査は公正・適切であるといえる。さらに、内部監査および外部監査の実施を行う。	

最終更新日付	平成 26 年 3 月 31 日	記載責任者	川鍋・岩崎
--------	------------------	-------	-------

8-41 財務情報公開の体制整備はできているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
8-41-7 私立学校法における財務情報公開の体制整備はできているか	私立学校法における財務情報公開を実施する。	私立学校法における財務情報公開を実施している。	小項目まで公開する方向へ努力したい。財務数字の掲載だけでなく、詳細な解説も加えていきたい。	学校法人森ノ宮医療学園校友会報 森ノ宮医療学園専門学校 Web ページ
8-41-8 私立学校法における財務情報公開の形式は考えられているか	私立学校法における財務情報公開の形式を満たす。	校友会報や学園 Web ページでの公開を行っている。	より見やすく、図表も入れて工夫する必要がある。	学校法人森ノ宮医療学園校友会報 森ノ宮医療学園専門学校 Web ページ

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
財務情報について、適宜、積極的に公表していく体制を整えたい。	

最終更新日付	平成 26 年 3 月 31 日	記載責任者	川鍋・岩崎
--------	------------------	-------	-------

基準 9 法令等の遵守

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>本校はあん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律、柔道整復師に関する法律、あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師に係わる学校養成施設認定規則並びにあん摩マッサージ指圧師、はり師及びきゆう師養成施設指導要領、柔道整復師学校養成施設指定規則並びに柔道整復師養成施設指導要領等に基づき教育活動を行っている。</p> <p>また、社会的にも法令遵守のための取り組みは重要であり、適正な学校教育を行なっている。</p> <p>さらに、鍼灸師・柔道整復師の業務に関し、法令遵守の精神を教育に取り入れ徹底を図っている。</p>	

最終更新日付	平成 26 年 3 月 31 日	記載責任者	森 優也
--------	------------------	-------	------

9-42 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
9-42-1 法令や専修学校設置基準等が遵守され、適正な運営がなされているか	法令を遵守し、適切な学校運営を行う。	法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な運営を実施している。		
9-42-2 法令や専修学校設置基準等の遵守に関して、教職員・学生等に対する啓発活動を実施しているか	教職員はもとより、学生に対しても法令遵守についての啓発活動を実施する。	教職員研修会等を実施している。学生に向けては医療概論や関係法規の授業中に行っている。		

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
法令遵守は当然であり、教職員はもとより、学生に対しても指導、周知を行っている。	

最終更新日付	平成 26 年 3 月 31 日	記載責任者	森 優也
--------	------------------	-------	------

9-43 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
9-43-3 志願者、学生や卒業生および教職員等学校が保有する個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	規程に基づき個人情報の保護に取り組む。	職務上必要な個人情報については、申請を行った教職員のみが閲覧することができるなど、学校法人森ノ宮医療学園個人情報保護に関する規程に基づき、対策が取られている。	個人情報についてのデータ閲覧については権限を持たせているが、内外からの不正アクセス等については、各 PC のジョブ履歴をとる等の対策が必要であろう。	学校法人森ノ宮医療学園個人情報保護に関する規程
9-43-4 個人情報に関して、教職員・学生等に対する啓発活動を実施しているか	教職員、学生に対する啓発を行っていく。	毎年、入学時オリエンテーションにて説明をし、「学生手帳」にも明記している。		

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
個人情報の保護に関しては、いわゆる個人情報保護法の施行以来一層厳格さが求められている。本校においても、厳重に管理していきたい。	

最終更新日付	平成 26 年 3 月 31 日	記載責任者	森 優也
--------	------------------	-------	------

9-44 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
9-44-5 自己点検・自己評価を定期的実施し、問題点の改善に努めているか	自己点検・自己評価は法令により義務付けられている。点検評価を本校の改善につなげていかなければならない。	毎年の自己点検報告書を基に学校関係者評価専門部会委員会からの意見も聴取し、改善に努めている。	第三者評価の実施は努力目標とはいえ、出来る限り今後の実施に向け検討していく。	平成25年度自己点検・自己評価報告書 学校関係者評価専門部会会議事録
9-44-6 自己点検・自己評価に関する方針は確立されているか	文部科学省作成の学校評価ガイドラインに従い、特定非営利活動法人私立専門学校等評価研究機構作成の様式にて実施する。	自己点検・評価委員会を毎年開催し、自己点検・自己評価について方針を定め運営している。	報告書の様式等については、特定非営利活動法人私立専門学校等評価研究機構によるものを参考にしているが、本校独自の評価項目の設定も必要と考えている。	自己点検・評価委員会議事録
9-44-7 自己点検・自己評価に関する方針は関係者に対して正確に伝わっているか	学内への周知を徹底する。学外へは学校関係者評価等の機会を利用する。	自己点検・評価委員会の方針を基に関係者（記載責任者等）に対し、必要であれば管理者会議等を利用し周知している。	自己点検・自己評価については、自己点検・評価委員会メンバーによる報告書作成となっており、今後は、関連部門の管理者に対しても自己点検・自己評価を行わせる必要がある。	学校関係者評価専門部会会議事録 管理者会議議事録

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
本校の自己点検・自己評価はまだまだ十分な物とは言えず、今後は点検評価結果をいかに改善につなげていくかが課題である。将来の第三者評価に向けた体制の構築にも取り組んでいきたい。	

最終更新日付	平成26年3月31日	記載責任者	森 優也
--------	------------	-------	------

9-45 自己点検・自己評価結果を公開しているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
9-45-8 自己点検・自己評価結果を公開しているか	自己点検・自己評価報告書を Web ページにて公表する。	本校 Web ページにて公表している。		本校 Web ページ
9-45-9 自己点検・自己評価結果の公開に関する方針は確立されているか	Web ページ上での積極的な公表を推進する。	自己点検・評価委員会の方針に基づき、自己点検・自己評価報告書や学校関係者評価報告書等を Web ページにて公表している。		自己点検・評価委員会議事録 学校関係者評価専門部会員会議事録
9-45-10 自己点検・自己評価結果の公開に関する方針は関係者に対して正確に伝わっているか	積極的な公表とステークホルダーはもとより、外部有識者からの助言を積極的に受ける体勢作りを構築する。	学内への周知は徐々に進んでいる。	学外関係者に対し Web ページ以外の周知方法について検討が必要である。	

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
平成 23 年度から自己点検・自己評価の公表を達成できた。今後は公表の事実や方針を学外の関係者へ周知していくことが課題となろう。	

最終更新日付	平成 26 年 3 月 31 日	記載責任者	森 優也
--------	------------------	-------	------

基準 10 社会貢献

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>本校は鍼灸師、柔道整復師関連団体との交流も深く、直接的、間接的にその分野での貢献度は非常に高いと考えている。ほぼ毎週、校舎内で研修や研究発表などが行われている。</p> <p>また、毎年、献血実施は継続して行っている。</p> <p>通学路となる近隣の清掃を行うなど、近隣住民の方々にも合同清掃に参加いただいたり、セミナーを一般市民へ積極的に公開したりすること等の活動により社会貢献の一助としている。</p>	<p>とりわけ、東北震災以降、各地で行われている避難訓練については、例外に漏れず、大阪市のモデル地区（南海トラフ地震想定）となるべく、地域、地元警察・消防署、区役所、医師会との連携による活動を行っている。</p>

最終更新日付

平成 26 年 3 月 31 日

記載責任者

川鍋 史一

10-46 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
10-46-1 広く教育機関、企業・団体、および地域との連携・交流を図っているか	各関係団体、地域との交流を深め、学校の資源である教育の分野では一般の方向けの公開講座も実施している。	関係団体には、会場貸し等で協力。地域の合同避難訓練等への参加も行っている。 小中高等学校、スポーツ団体等に対し、出張講義・講座を開講し、社会貢献を図っている。		
10-46-2 学校の資源を活用し、生涯学習事業や雇用促進への支援を行っているか	学校の資源を活用し、生涯学習事業や雇用促進への支援を行うことを目標とする。	現役の小中高教員に対しては他にはない医療系ならではの研修授業を実施しており、一般の方向けの講習会も月に数度の割合で定期的実施している。		
10-46-3 学校の施設・設備を開放するなど、地域社会と連携しているか	緊急時の避難場所としての提供および受け入れ態勢を構築する。	大阪市と共同でモデル地区作りに参画している。地域住民の方の会議の場として利用している。		
10-46-4 諸外国の学校などと連携し、留学生の相互の受け入れ、共同研究・開発を行っているか	米国及び中国の関係する病院等との連携を充実、発展する。	年に一度、任意参加ではあるが、在校生、卒業生を問わず研修会を実施している。 (米国・中国)	取得資格が諸外国によって異なっているため、研究・情報交換等、試行錯誤の段階である。	

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
10-46-5 重要な社会問題について、学生や教職員に対し啓蒙活動を行っているか	教職員のみならず、学生に対しても課外活動的に実施する。	定期的ではないが、時々に応じて実施している。	一部では実施するに至ってはいるが全体への浸透はまだできていない。	
10-46-6 学校として重要な社会問題に具体的に取り組んでいるか	学校として重要な社会問題に具体的に取り組むことを重視する。	学校として重要な社会問題に取り組む必要を認識しているところであるが、成果を上げるに至っていないと思われる。	薬を使わない東洋医学。人の手で整復する徒手技術。これらを活かした活動の場は、国内のみならず、今後は海外にも目を向けて考える必要がある。	

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
関係団体等への会場貸しや、セミナーの開催等により業界団体を通じた社会貢献を行っている。また、一般向けのセミナーや地域との交流も活発に行っている。	

最終更新日付	平成 26 年 3 月 31 日	記載責任者	川鍋 史一
--------	------------------	-------	-------

10-47 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか

点検小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
10-47-7 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	学生のボランティア活動を奨励、支援していく。	学校として清掃ボランティアはしているが、ボランティア募集のポスターを貼ることくらいしか出来ていない。	東北震災の例から、今後は学校として、医療者の現地派遣も考えていく必要があると考える。	
10-47-8 学生のボランティア活動の状況を把握しているか	学生のボランティア活動の状況を組織的に把握していく。	学生のボランティア活動の状況を組織的に把握するに至っていない。	事後報告で情報が入ってくるので、事前調査等の必要性を認めるが、困難を極めている。	

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
本校は比較的学生の年齢層が高いこともあり、これまでは積極的なボランティア活動の奨励は行ってこなかった。時代の変化に合わせ対応を考えていきたい。	学生の年齢層が高いこともあり、ボランティア意識は比較的高い。実際に活動している者も複数名居るようだが、あえて申告はしてこないのが現状である。

最終更新日付	平成 26 年 3 月 31 日	記載責任者	川鍋 史一
--------	------------------	-------	-------